

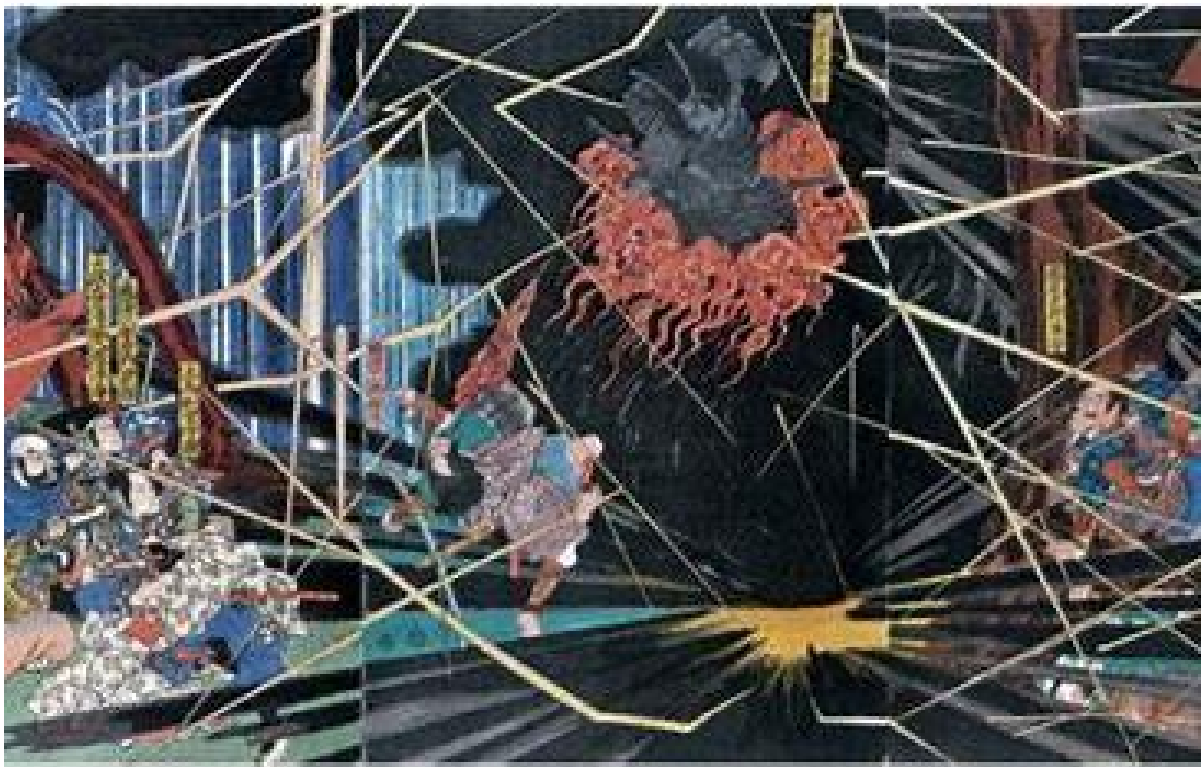
群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 15

請求番号	P9311	文書番号	801	年代	江戸時代後半以降
史料名	歌川国芳画「肥後国水俣の海上にて為朝難風に遇う」 「清盛入道布引滝遊覧悪源太義平霊討難波次郎」(錦絵一括のうち)				
形態	大判錦絵 3枚続き	複製	あり	・なし	
備考	寄託の古文書(片山紀道家文書)				
史料概要	<p>江戸時代の代表的な浮世絵師の一人で、ユーモラスな猫の絵等でも人気の高い歌川国芳(1798～1861年)の錦絵2点である。特色は各錦絵が3枚続きで1つの大きな作品を構成していることである。1枚の大きさは約255mm×約375mmあり(大判)、A3用紙(297×420mm)に近い。この3枚を並べると、迫力のある大画面が展開する。</p> <p>*絵の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「肥後国～」: 曲亭馬琴『椿説弓張月』の一場面。平氏を討とうとする源為朝が嵐に遭い、嵐を鎮めるために妻が身を投げたり、崇徳院の眷属等が助けに現れる。 ・「清盛入道～」: 鎌倉時代の軍記物『平治物語』に基づくといわれている。祝宴を開く平清盛一行の前に、源義平(頼朝の兄)の亡霊が雷光とともに出現する。 <p>2点とも歴史上の有名な武士が描かれているが(武者絵)、空想上の生き物や超自然的な現象が描かれるなど、伝奇的な雰囲気満ちている。こういった趣向は江戸時代に大いに人気を博し、美術、文学(読本等)や演劇(歌舞伎)などに共通する。</p> <p>本史料は発展した浮世絵の一つの極致であるとともに、江戸時代後半の文化が視覚的にわかる。江戸時代に名主を務めていた高崎市内の家に伝来したものである。</p> <p>原本は多数の錦絵が重ねられたり、端が糊付けされ折り本のようにになっている一括の中にある。「肥後国～」は3枚続きでは配置されていない。また、どの錦絵も状態があまりよくないため、取扱いには注意が必要である。</p>				
指導要領(内容)との関連	<p><小 6> (2)・ア・(ク) 江戸時代の町人の文化(浮世絵)</p> <p><中 歴> B・(3)・ア・(ウ) 江戸時代の産業の発達と町人文化</p> <p><高日探> C・(3)・ア・(イ) 近世の庶民の生活と文化の特色</p>				
活 用 例					
活用単元	江戸時代後半の文化、浮世絵の発達・錦絵の流行、出版文化の隆盛				
活用場面	・江戸時代後半の文化、美術がわかる史料として、導入、及び探求する場面での活用。				
活用方法	・デジタルデータを活用してプリントや掲示することが出来るほか、調べ学習の史料として提示することができる。また、複製物を教室や廊下に展示し、いつでも自由に見ること出来るようにすることで、意欲関心を高めることができる。と考える。				
予想される生徒児童の反応など	・3枚を並べると、色彩豊かで動きのある大画面が現れるので、児童生徒の関心を引き寄せることができるであろう。教科書や資料集等に掲載されている浮世絵や、ほかの時代の代表的な美術作品と比較することで、浮世絵の特色や発達、江戸時代後半の文化の特色を比較的容易に読み取る事ができると考える。				

歌川国芳画 (P9311 801) 江戸時代後半以降



「肥後国水俣の海上にて為朝難風に遇う」



「清盛入道布引滝遊覧悪源太義平霊討難波次郎」